

2019年度

地域の子ども研究会

～地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指す～

目次

子どもたちとの活動の報告	1
--------------	---

○第34回ともだちドッチボール大会

○ともだちフェスティバル

○合同遠足

○子ども将棋大会・子ども卓球大会

情報交換の報告	6
---------	---

○情報交換について

中高生活動の報告	7
----------	---

○中高生活動について

研究活動の報告	8
---------	---

○「子どもと発達検査・療育手帳のあり方について」

○「子どもとの関り」

○「子どもの権利条約」

1年間の振り返り	9
----------	---

○指導員一人ひとりの振り返り

子どもとの活動

今年も合同行事を通じて、他施設との交流などを目指し活動してきました。熱中症による行事短縮や合同遠足の日程調整の難しさなど課題が多い一年でした。中高生の活動についても共有が難しくなかなか研究会内で話が出来ませんでした。

交流とはどういう事をいうのかなど話合いましたがそれぞれの施設や支援員によっても思いや考えは違います。それでも、来年度も研究会内で共有しメンバー全員で取り組んでいきたいと思います。

取り組んだ内容一覧

- 第34回ともだちドッジボール大会
- ともだちフェスティバル
- 合同遠足
- 琵琶湖セツルの家 ワーク
(雨天のため中高生参加中止)
- 情報交換



第 34 回ともだちドッジボール大会

文責 丸尾 咲貴

【日 時】2019 年 5 月 26 日（日）9：30～12：30

【場 所】長居小学校グラウンド・体育館

【参加人数】小学生 267 名 中高生 13 名

【参加施設】愛染橋児童館学童クラブ・阿さひ保育園つくし会・育徳園子どもの家
今池こどもの家・今川学園子どもの家・四貫島友隣館子どもの家
長居子どもの家・望之門学童クラブ・平和の子どもの家
やまと保育園子どもの家

計 10 施設

【成 績】

1 年生 優勝：育徳園①チーム

準優勝：育徳園②チーム

2 年生 優勝：うチーム（長居・平和・望之門）

準優勝：うさぎチーム（長居・平和
育徳園）

3・4 年生 ①リーグ

優勝：F チーム（今川・望之門・長居）

準優勝：C チーム（育徳園・長居）

②リーグ

優勝：G チーム（育徳園・阿さひ・長居）

準優勝：H チーム（育徳園・長居）

5・6 年生 優勝：②チーム（育徳園・やまと・阿さひ・長居）

準優勝：①チーム（愛染橋・育徳園・長居）

今年度のドッジボール大会は天候には大変恵まれましたが、暑さ対策の為、午前中だけの大会開催となりました。昨年に実施した子ども達のアンケートを踏まえてルールの見直しや、5・6年生チームの決め方を工夫するなどを行いました。子どもたち自身で考えることや友達と話し合い協力することで、交流も深められました。限られた時間の中でしたが、大会を楽しむ子どもたちの姿が見えました。年々、土日の習い事等で大会参加人数が減りつつあるが子どもが自分たちで考え、作り出しそれを継続していくことで、さらに行事が活気づくことに繋がると思います。来年度も子



どもたちの声を聞きながら一緒に考えていきたいと思います。

ともだちフェスティバル2019

文責：浅井 あすか

【日時】2019年11月18日（日）10：00～13：00

【場所】長居公園 自由広場

【参加施設】10施設

育徳園子どもの家・愛染橋児童館学童クラブ・今池こどもの家・望之門学童クラブ・阿さひ保育園つくし会・長居子どもの家・やまと保育園子どもの家・四貫島友隣館・平和の子どもの家・今川学園子どもの家

【参加人数】224名

【ねらい】楽しく参加しながら交流する。

（他施設を知り、友だち・職員と関わる、中高生のつながり）

今年度はオープニングでゲーム「ジャンケン列車」や「パブリカ」をみんなで踊ってスタート！！ジャンケンゲームでは、自分の施設内の友だちとばかり対戦をしていて消極的だったどもたちの姿も見られましたが、ゲームの後半になると施設間の交流も深まり“ながーい”列ができていてビックリ！！楽しそうなどもたちの笑顔、笑い声がいっぱいのオープニングになりました。各施設のブースでも、施設を越えてどもたちの繋がり作りを意識した工夫（運動ブース、工作ブース）があり、「ともだちフェスティバル」が少しずつどもたちの中に定着してきているのかなと感じました。交流ブースでは、けん玉を披露してくれる姿があり、今まではけん玉に興味を持てなかったどもたちも、他施設のどもが“もしかめの回数”にチャレンジしている姿に刺激を受け施設に帰ってからも毎日練習をしている姿が見られるようになりました。どうしてけん玉にチャレンジするようになったのか聞いてみると「愛染橋のお兄ちゃんがすごく上手かったしコツを教えてくれた！！」と嬉しそうに話していました。この言葉を聞いたとき『他施設との交流はどもたちにとって刺激になっている』と感じました。今後も、他施設のどもたちと楽しく交流できるような行事になるように意識をしながらこれからも支援員として取り組んでいきたいと思います。



合同遠足

文責 隈元 まひる

実施日時：2019年6月22日（土）

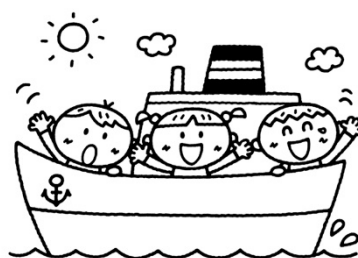
実施場所：二色浜

参加施設：愛染橋児童館学童クラブ・育徳園子どもの家

先に着いていた育徳園30名が二色浜であそんでいると、愛染橋の10名が到着しあそび始める。初めは「ともだちドッジの時おった子おる」と気にしながらも別々に遊んでいたのだが、指導員が話をしたりするのを近くで見て少しずつ近づいて行っていた。気がつくとも高学年の子どもたちが浜に落ちていた海藻を投げ合い、水を掛け合い、大きな声で歓声を上げてあそび始めていた。「めっちゃやられた」「くやしい」など言いながらも、お互いに声を掛け合ってあそぶ姿が見られた。低学年の子たちは、あそびに入ったり、誘ったりは難しい様子であったが、楽しそうな雰囲気をよく見ていた。



合同行事で施設を知る・友だちの顔を知るところで終わってしまい、なかなかつながりづくりへつなげることができないことが課題としてあがり、合同遠足と一緒にあそぶことで他施設の友だちを知り、つながり作りにしたいと考えて企画している。しかし、今年度はこの2施設しか実施することができず、日程調整等の課題はあるが、なぜ合同遠足をしたいのかを今一度考え、来年度につなげていきたい



2019 年度子ども将棋交流会

文責 田中 咲綺

○令和元年 1 月 11 日（土） 育徳園早川記念ホール

参加施設：愛染橋児童会 今池こどもの家 育徳園子どもの家 都島児童館
長居子どもの家 望之門学童クラブ 平和の子どもの家
阿さひ保育園つくし会 四貫島友隣館子どもの家

参加人数：82名

内 容：名人リーグ（上級者）金リーグ（中級者）銀リーグ（初心者）
団体戦（金・銀の選手5名）
金・銀リーグの予選敗者トーナメント+と金リーグ（練習対局）
指導棋士による6面指し 将棋ものしりクイズ

感 想：自分の実力を試せる交流会、色々な子と将棋の対局でわくわくした気持ちや緊張した子ども達の表情が見られました。この大会で、自信や喜び、悔しさなどを感じたと思います。この一日が子ども達の成長に繋がる事を願います。



2019 年度子ども卓球大会

○平成 31 年 11 月 24 日（日） 昭和中学校体育館

参加施設：育徳園子どもの家 愛染橋児童館 長居子どもの家 今池こどもの家
望之門学童クラブ やまと保育園子どもの家 都島児童館
阿さひ保育園つくし会 西淀川中学校

参加人数：75名

内 容：（午前）各学年によるリーグ戦
（午後）午前リーグを順位別に再度分けてのリーグ戦

感 想：一年間練習してきた成果を出し、緊張しながらも楽しんでいる子ども達。
この大会での経験を糧に未来に羽ばたいてほしいと思います。



「情報交換について」

文責：横山 奈津美

○今年度情報交換で話し合った内容

- ・喧嘩の仲裁
- ・公園での遊び
- ・保護者との関わり
- ・冬の遠足について
- ・夏休みの室内活動について
- ・保護者や OB との距離
- ・境界線・距離感について
- ・冬季休暇中の過ごし方
- ・各施設のお勧めの集団遊び（野外・室内）
- ・音楽的な取り組み（どのように）
- ・感染症の対応について
- ・保護者参加の行事について
- ・子育て支援について（どのような取り組みなのか）
- ・不審者対応について

○情報交換の取り組み

各施設の指導員の方と自施設での取り組み、困っている事や悩んでいる事などを2つのグループに別れて少人数で討議をしました。意見交換をし、良い意見やアドバイスをもらい共有し、自施設に持ち帰り子どもたちの活動に生かす事が出来る討議の場を10分程度の時間を作り行ってきました。

○今年度の振り返り

初めに年間で話し合いたい事や共有したい事などのテーマを決めず、その都度各施設での困っている事を討議し皆で共有する事で、直ぐに自施設で実践する事が出来ました。反省として困りや悩みが出てこない事もあったので、ある程度テーマを決めていた方がスムーズに進んでいたかと思いました。

今年度は話し合いで沢山の事を討議し学ぶことがたくさんありました。

来年度は各施設での流行の遊び等を共有する事で直ぐに活動の場で実践できるので取り入れていければと思います。



中高生活動について

文責：望之門学童クラブ

大西 奈々子

2019 年度中高生活動について

○ともだちドッジボール大会において審判・運営スタッフとして参加

○ともだちフェスティバルにおいて運営スタッフとして参加#

○大地協バザーにおいてかえっこ広場などの店舗運営を実施#

【セツルの家ワークキャンプ……雨天の為作業内容を縮小となり中高生は不参加へ】#

#

山の家でのワークキャンプが無くなり、以前まで行っていたリバートレッキングも数年前より、加盟施設職員対象に実施するびわこセツルの家ワークキャンプに中高生も参加し、セツルの家開設に向けての作業と自然体験活動を行う、という形に変えた。#

今年度は雨天の為、ワークキャンプ活動の内容縮小せざるを得ず、中高生活動を削る形となってしまった。#

2019年度実施した中高生活動も既存の小学生との活動・大地協バザーに“お手伝い”として参加の呼びかけをし、来てくれた中高生に「〇〇してね」と（当日に出来る範囲で中高生の声を聴き方法などを反映させるよう努めているが）活動を提供するスタイルであり“中高生を主体とした活動スタイル”とはなっていないのではないかと振り返る。#

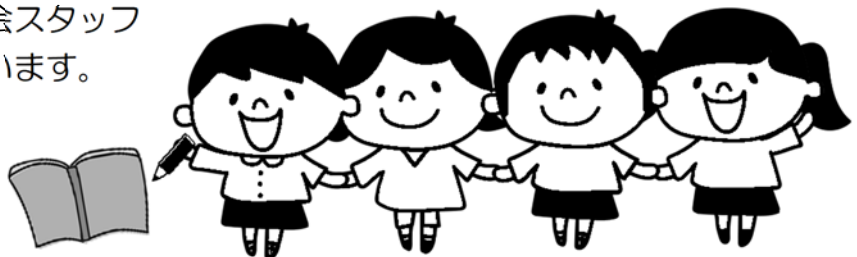
地域の子ども研究会加盟の各施設では、それぞれ施設で行っている中高生活動のねらいや活動内容も様々で、そこへ子どもたちが育つ地域環境や施設職員の力の入れるポイント、育ってほしい姿などは多分に存在する。#

それらを統一する必要は感じないが、2020年度は改めて各施設・指導員の現在行っている中高生への願いやねらいを共有し、共感することから始めてみてはどうかと思う。その上で、大地協・地域の子ども研究会として中高生活動のねらいを定め直し、そのねらいに沿って#“中高生が主体となって行う活動”“居場所作り”“自己実現”“地域資源と中高生活動のニーズ”などをキーワードに活動内容を企画していきたいと思う。#

2019年度末から2020年度の跨ぎには感染症による緊急事態宣言と伴って、感染拡大防止のための学校休校や外出自粛があった。その間の中高生への制限や負担は子どもたちから聞く限り非常に大きなものであったと感じる。この先子どもたちが歩んでいく時間の中で常に平穏・豊かさを誰か大人が与えてくれるものではない。#

子どもたちが自身で心に豊かさを持ち、視点の変換をし、仲間と協力して“力を発揮しよう”と踏み出せるよう、中高生時期に（遡っては小学生時期に）こういった関りや環境が大切か、地域の子ども研究会スタッフみんなで考えていきたいと思います。

#



2019 年度研究活動について

4 月に自分たちが学びたい事、知りたい事を出し合い、研究テーマを 3 つに絞って研究を進めてきました。

「子どもと発達検査・療育手帳のあり方について」

「子どもとの関り」

「子どもの権利条約」

しかし、1 年間の研究をまとめていこうという時期に新型コロナウイルス感染症感染拡大対策として 3 月より学校臨時休業が始まりました。それぞれの施設で、感染症対策を行いながら朝より子どもたちを受け入れ、子どもたちの安全・生活・成長を考えながら、同時に研究活動をまとめていくことが困難な状況となり、いったん停止せざるを得ない状況となってしまいました。現在の状況が収まりましたら、改めてこれまでのことをまとめていくこととなりましたので、2019 年度の報告集では研究活動報告は割愛させていただきます。

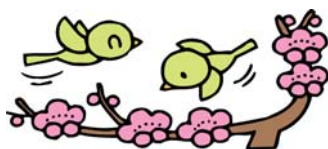
一年間の振り返り

今川学園子どもの家 浅井 あすか

地域の子ども研究会の中で「情報交換」の時間は、私にとって他施設の現状を知れる学びの機会でした。この時間の中では、支援員が子どもや保護者への関わりの中で困っている事、悩んでいる事、日常どのような遊び（園外、室内など）をしているのか？行事（作品展、キャンプ、クリスマス会）はどんな取り組みをしているのか？遠足はどんな場所に行っているのか？…など、各施設で取り組んでいる事を知る事ができ、自施設の運営にとっても参考になりました。その情報の中から、自施設でも取り組める事を子どもたちに提案しながら遊びの幅を広げる事ができました。今年度は、防災防犯について（不審者、地震、水害など）“どのような備え、対策、対応”をしているのか？という情報の共有が図れました。自分の施設はどうなのか？自施設の設備や対応、環境を考える機会にもなりました。子どもの命を守るための“緊急時の対応”が出来るようにさらに自分で深めていきたいと思います。



大阪市地域福祉施設協議会が主催の行事「ドッジボール大会、ともだちフェスティバル」に参加した子どもたちからは、「楽しかった！！」「面白かった」という声がたくさん聞かれて嬉しく思いました。日曜開催なので、週末の唯一家族で過ごす時間となる家庭も多く大地協の行事への誘い掛けが難しいと感じましたが、自施設の中だけの集団経験だけではなく他施設と触れ合う中で人との出会い、繋がり、自分の気持ちを相手に受け入れてもらえる経験や相手の気持ちを受け止める経験をたくさん積み重ねてほしいと思います。そして、これからも積極的にいろんな事に挑戦し子どもたちが新たな自分を発見できるような支援を目指していきたいと思います。



2019 年度 研究会を振り返って

アフタースクール KIDS かわぐち

長岡 直哉

初めて今年度より地域の子ども研究会に参加させていただきました。

いろんな施設に行かせていただき施設の様子を見ることができました。他の施設がどういった環境、雰囲気なのか気になっていたのも、どんな本があるのか、どんな玩具があるのか、どのように構成しているのか等、訪れるたびにわくわくしていました。「この本おもしろそうだから図書館で借りてみよう、この玩具なら手作り出来そう、この構成なら子ども達が落ち着いて過ごせそう」等取り入れることができました。

また、いろんな施設の支援員さんとの交流がとても新鮮で勉強になりました。情報交換では他の施設の室内、戸外の遊び方、行事の種類、取り組み方等を話し合いました。「このゲーム遊びしたら盛り上がりそう、その行事やってみたい」等参考になることばかりでした。

他にも研究テーマでは、「発達障がいについて」をテーマに話し合いました。実際細かく調べてみたら知らなかった情報ばかりでお互い共有して意見を出し合いました。見方が調べる前と印象が変わり、制度に疑問に思ったことやメリット、デメリット等がわかり、発達障がいの検査方法、種類、判断基準等、深く学ぶことができました。

これからも研究会で学んだことを取り入れていき、自施設の子ども達や地域の子ども達に還元していけるように今後も研究していきたいと思います。

2019 年度を振り返って

アフタースクール KIDS なみよけ

遠藤 美幸

～放課後支援員としての子どもとの向き合い方～

1 年生～5 年生と、成長段階が違う大勢の子ども達。学校での姿、家庭での姿。様々な側面があり、1 人ひとり頑張っている場所や、内容が違うことがわかった。

- ・児童クラブでの姿や、問題面を取り上げ評価せず、1 人ひとりの良さや、個性を取り入れるクラブ作りにする。
- ・身の回りの生活習慣では、子ども自身がどの程度、支援を必要としているのか見定め、声かけや、見守りを継続的に続ける。
- ・適切な表現が出来ず、暴力や暴言などのトラブルになってしまう子には、支援員が気持ちの代弁をして、伝え方や、回避方法など適切なコミュニケーションを身に付けれるよう支援していく。
- ・思い通りいかず、奇声を上げて表現する子には、「よく見てるよ。」「何が嫌やったのか知ってるよ。」と伝え続けていく。奇声を上げる。の行動面ではなく、その前にあったことに着目し、叫ばなくても周りは見ている。気付いているよ。ということを伝え続けていく。
- ・落ち着きがなく、集中力が続かないが多いので環境構成を見直していく。子ども達にとって、集中して宿題ができる環境になっているか、遊びやすいスペースになっているか、気が散りやすい環境になっていないか。構成を考える必要がある。
- ・新 1 年生が入ってきたことで、上級生のストレスが高まり、今までの居場所ではなくなってしまった。上級生には、新しく係りをつくり、役割をもてるようにする。1 年生は、上級生に対して、憧れの気持ちをもてるようにする。
- ・子ども達の好きなこと、得意なことをクラブで取り入れ、支援員も一緒になって 1 つのイベントとして楽しむ。(絵画・図書・将棋・オセロ・カップスタック・マラソン・カラーサンド作り・生き物飼育・野菜作り・スライム作りなど)
- ・1 メッセージを活用し、自分の気持ち・相手の気持ちを知り、認め合うコミュニケーション作りを行なった。

1 年間を通して、子ども達の様々な成長を見ることができた。

来年度も、子ども達 1 人ひとりに向き合い、成長をサポートしていきたい。

1年を振り返って



望之門学童クラブ
大西 奈々子

2019 年度を振り返る中で外せないキーワードは“感染症”です。

今年度も楽しい・嬉しい事があり、ケンカした事も子ども達の成長を感じた事も
沢山ありました。

望之門学童クラブではタイミングよく、6 年生達と最後に旅行に行くことが出来ました。陶芸をし、温泉に入りバイキングで夕食を食べ、日にちをまたいでみんなでおしゃべりしながら誕生日の子のお祝いをし、ラウンドワンで全員で遊んで、スタバで乾杯しました。

6 年生だけではなく、学童クラブでのイベントや家族でも個々に「キャンプでザリガニ捕まえた!!」「将棋大会で賞状もらった」「家族でスノボ行った」「中学受験した」等の思い出が沢山あったと思います。

しかし子どもも保護者も、そして指導員も振り返って思い出すのは
「年度末に休校になったなー。」「卒業式短くなった、茶話会出来なかった」「大変な 1 年だった」となるでしょう。それ程先の見えない不安はとても大きいし、継続してしなければならない制限と我慢は心が疲弊し、とても大きな印象として残っていくものだと思います。

そして思いもよらない逆境の中では、やはり子どもたちもストレスを抱え、出来なかった・やりたかった“楽しみ”が奪われた事を嘆く声を多く聞きます。「この状況を楽しむ」事は大人の私にも難しく気持ちの切り替えは中々出来ませんが、「学校休み・外に出られない＝友達と遊べない・何も面白くない」ではなく「せっかく時間が出来たのだからいつも出来ない時間のかかる工作にチャレンジしてみよう、時間をかけて遊んでみよう」と思考を好転させることが出来れば、その『やってみよう』が『今の状況でも大丈夫かな? 迷惑にならないかな?』と考える力が生まれ、周りを見る視野の広がり・心の余裕が出来る、それが他者の為に何をすべきか考える機会・経験となり、生きていく上で子どもたちの礎となる力が育まれると信じています。

こうした環境と子ども達の思考の転換には、関わる大人の言動が大きく影響することは言うまでも無く、身近な大人が不安ばかり、嘆いてばかりでは子どもたちが思考を好転させることは難しいでしょう。歯を食いしばり不安を押し潰しながら、日々変わる現状に右往左往しながらであっても、大人が子ども達に与える環境に気を配り、前へ進んでいく姿を見せなければならないと思っています。

しかし大人とはいえ一人では、前がどこか分からなくなったり不安に押し潰されそうになったり、嘆きたくなる事も大いにあるのが現状です。そうした時には『大人同士知恵を出し合い、相談し、不安を共有しながら助け合う』同じ境遇の仲間がいます。その事に今改めて感謝し、共に励まし合っていきたいと強く思います。

弱音や不安は大人の中だけに留め、子どもたちに沢山制限を強いている現状が緩和されたとき、最大限の自己実現と楽しめる環境を提供できるよう、今はただひたむきにその時を待ち、準備に励みたいと思います。



地域の子ども研究会をふりかえって

愛染橋児童館学童クラブ 岡原 武

地域の子ども研究会に参加して、4年目になりました。

今年の行事では、ドッジボール大会は参加人数が少ないものの、私が審判であった5、6年生を中心に活躍する姿を見ることができました。相手にボールを当てることはもちろんですが、ボールを投げていない他施設の子どもにボールを渡すなど優しい面も見ることができました。

友だちフェスティバルでは、子どもたちに意見を聞き、最後は高学年で「お化け屋敷をしよう」ということになりました。初めは自分でも本当に「公園でお化け屋敷をできるかどうか」はわかりませんでした。しかし、子どもや支援員、保護者と協力して、当日なんとかお化け屋敷が完成しました。当日参加した子どもは少なかったですが、他施設からたくさんの子どもがお化け屋敷に来てくれて、愛染橋の子どもたちはとても喜んでいました。

児童部会では「子どもの権利条約」をテーマに学び、その中で人権教育の大切さを知ることが出来ました。「少子高齢化」「人口減少」「格差社会」「貧困」「情報格差」子どもを取り巻く環境は大きく変化しようとしています。もちろん大人を取り巻く環境も変化しています。どんなに環境が変わっても「人権」が基本にあるのだと思いました。この基本を失敗しながら自分ができることをやっていこうと思います。

研究では一人の子どものケースを追いました。改めて、子ども一人ひとりの個性や家庭背景に思いをはせて、対応することの大切さを学ぶことができました。

今年は家庭の事情で2月より育休を取り、途中で抜けることになりました。この一年で自分の中の課題に改めて気づけたので、来年度は課題とともに新しいチャレンジができればと思います。



地域の子ども研究会を振り返って

平和の子どもの家 岡村 慎一

今回の研究会は4回目の参加となりました。保育現場に行ったり、学童の担当になったりする中で、研究会の振り返りをする度毎回書いているかもしれませんが、ここはわたしにとって“ただいま”と言える場所です。そして必ず顔見知りの先生は“おかえり”と言ってくれます。



研究会から、勤務している施設である平和の子どもの家に帰り、放課後子どもたちが“ただいま！”と帰ってきます。わたしは“おかえり”と言います。わたしはこの挨拶がとても好きです。



人への思いやりの心はどこにあると思いますか？という問いの答えにそれは“人と人の間にあります”というのを聞いた時、この挨拶の時にいつも感じているものだと思います。

信頼して受け止めてくれるという安心からくる“ただいま”待ってたよというメッセージとともに送る“おかえり”この時生まれているのは“安心”と“信頼”です。

今年の研究会では研究テーマを3つ設けました。その中で私は「子どもの権利条約」について研究してきました。耳にはしたことがあるという程度の知識でしたが、研究して知っていく内にこれは子どもと関わる以上誰もが知っておかなくてはならないという必要性を感じると共に、想像以上に奥が深いものだと感じました。



今年の児童部会は“子どもの権利条約”をテーマに行いました。権利条約を学ぶことはもちろんですが、研修を形にするまでに本当に沢山の方に助言を頂いたり、意見を出し合ったりしたことがわたしにとって大きな学びとなりました。関わって下さった先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。



地域の子ども研究会に初めて参加した時は、今だからこそ言いますが、とても嫌でした。それは知らない人がいて、知らない場所で、何をするところか分からず不安だったからです。今は知っている人ばかりで行き慣れた施設で自分の思いを伝えられる場所で、沢山の仲間が増える場所なので大好きです。職員同士も子ども、保護者との関係も思いやりのある“ただいま”“おかえりなさい”を繰り返しながら、“安心”と“信頼”のある大好きな場所“家”になる様にしていきたいと思います。

2019 年度の振り返り

四貫島友隣館子どもの家 荻野 遙馬

『研究会関係の事を振り返るだけでも今まで以上に自身の改善すべき点を知ることができた一年でした。さらに向上心を持って学び、吸収し子どもたちへ還元していけるよう取り組んでいきたいと思いました。』

と、昨年度のまとめに書かせて頂きましたが、果たして2019年度の1年間は「向上心を持って学び」、「自身の改善」をし、「子どもたちへ還元」できたのだろうか振り返ってみても、日々の業務にあくせくし、慌ただしく1年間が過ぎてしまったという記憶しか残っていません。自分は成長できているのか疑問が残ります。

2年生の男の子。普段の生活の中では積極的に友達に話しかけるタイプではなく、決まったメンバーと静かに遊んでいることが多いのですが、ともだちドッジボール大会の日、会場に着いたとたんに誰かを探し始めました。よく聞いてみると昨年一緒のチームになり仲良くなった子で、今年も参加しているかも知れないから探しているとの事。無事に合流でき今回も同じチームだったふたりは仲良く大会を楽しんでいました。

3年生の男の子。ともだちフェスティバルの当日は用事があるから参加できないが、準備には積極的に参加してくれていました。自分がぼそっと「参加人数が少ないなあ」と言ったのを聞いていたのか、「俺行くよ!」と用事をキャンセルし参加してくれました。

9月の児童部会に向けて研究会のメンバーや自施設の職員と子どもの権利について話し合う中で自分は全くもって甘い考えで保育に携わっていると反省させられる事ばかりでした。

子どもたちは日々成長し、驚かされることばかりです。去年とは違う、先月とは違う、昨日とは違う。そんなこどもたちの日々の成長の妨げにならない様にも、少しでも役に立てるように、まず自分がより意識を変え、学び、成長していかなければいけないのだと改めて気づかされた1年になりました。



1年間を振り返って

長居子どもの家 川畑 亮輔

今年度私が研究活動で取り組んだのは「子どもの権利」についてでした。

子どもと関わる私たちにとって大切にしないといけない「子どもの権利」ですが、普段の生活の慌ただしさ等で、中々子どもとの関りを振り返れず、大切にしなければならない権利を実は奪っていることになるかもしれないと気付きました。もちろん子どもの最善の利益を考え、子ども達と関わってきましたが、今回の研究で普段の自分の関わりや活動を振り返り、大人の考えや理想を子ども達に押し付けているだけではないか、大人の理想の子育てが子どもの成長であると勘違いをしているのではないかと考えました。

今回の研究テーマで児童部会を行いました。児童部会を企画するにあたり、たくさんの施設の職員にアンケートの協力を依頼したところ様々な答えが返ってきました。その答えのひとつひとつを見ていると、子どもの権利について守れているのか、と不安になっている職員が多く、私と同じように普段の生活の慌ただしさの中で、中々大切にすることができない事をアンケートから感じました。児童部会の中でも様々な地域、職種の方と話す機会がありました。その中でもやはり守れているのか、という話もありました。

では、どうすればいいのか。私には答えがわかりませんでした。しかし今回の研究活動、児童部会までの取り組み等で答えに大きく近づくことができた事を感じました。

様々な方の話、自分自身の保育の振り返り、普段の保育だけでは気づけない事がたくさんありました。「子どもの権利」を深める度に子どもたちの声に耳を傾けるようになり、ひとりひとりの育ちや背景、様々な場面での権利を考え、見つめながら関わる事が出来ていると思います。今回の研究活動でも本当に大きな学びを得ることが出来たと思います。何より私一人では到底考えることが出来ない事も、たくさんの方の思いや意見を共有できたことは研究会に参加しているから経験できた事だなと思いました。

私が研究会に参加して6年が経ちました。1年目の事を思うと、保育に対する意識は大きく変わったと思います。学びの大切さ、人と繋がる事で大きな経験と知識を与えてくれました。たくさんの方に支えられ、繋げてもらい経験したことを、今度は私が次に繋げられるようにしていきたいと思います。この繋がりからもらった大切な学び、保育に対する考えや不安。今回のアンケートで見えたように、福祉に関わる方が日々考え、不安や葛藤の中子ども達と関わっていると思います。研究会の中だけで終わるのではなく、もっと多くの方の思いを共有できるようになれば、よりよい支援に繋がるのではと思います。広げるのは中々難しいと思いますが、少しでも多くの方と繋がりを持てるようになれば、もっと保育がおもしろくなるだろうなと思います。

今年も一年ありがとうございました。



1 年を振り返って

育徳園子どもの家 隈元まひる

今年度最後は、新型コロナウイルスによる学校休業や社会全体が自粛となる中で、学童として子どもたちの安全・生活をどう守り、大切にしていけるのかを考える一カ月を過ごした。また、学校休業による保護者の戸惑いや心配を目の当たりし、保護者の生活を守ることが、子どもの生活を守ることにつながることを感じたことでもあった。保護者と話す中で、学童に行っていない子やいきいきに行っている子や保護者の困り・大変さを聞き、学童が子どもたちのセーフティネットとなれているのか、できることは少ないができることはないのか、地域の中でどう役割を作っていくのかに難しさを感じる。

毎日接している子どもたちの変化を急に実感することがある。1年生の時は鬼ごっこで鬼になると泣き出してしまい、逃げ回ることを一緒に楽しんでた子が5年生になり、これまであまり見ることのなかった子たちとおしゃべりを楽しむ様子に変化を感じはじめていた。秋になり、ともだちフェスティバルの“8の字”に手を挙げ、練習から積極的に取り組み参加する姿に、周りの友だちの様子も変化し、保護者の方とは驚きを分かち合った。子どもたちの変化、成長を目に見えて求めがちなものであるが、まずは一緒にあそぶ・楽しむ、そして1年、3年、5年、それ以上の長い目を持って子どもたちと接していこうとあらためて感じた。

児童部会で子どもの権利条約について学びを深めていくなかで、子どもに寄り添う、一緒に考えていくことが大切ではないかと議論になった。だが、寄り添うということはどういうことなのか、実際にしたいと思うのだが、これでいいのか、難しいと思う日々である。まず自分の考え方・価値観はどういうものかと振り返り、子どもや保護者の事をどう見ているのか客観的に見なければいけないのではないかと考え、振り返ってみたのだが何となく「～したらあかん」「～は嫌やな」「まあいかな」と思っていることが多い。なぜそう思うのか、考えるのか、受け入れられないのはなぜか自分の価値観を知るところから始まるのではないかとヒントをもらい考え始めたが、自分の価値観は狭いということを実感している。そこから出発し、様々な学びを通し、子どもたちと過ごししながら、自分の考え方・価値観を一つ一つ構築していきたい。



一年間の振り返り

長居子どもの家 田中 咲綺

今年度初めて学童指導員になり、地域の子ども研究会へ参加し、不安の中で今年度が始まりました。最初の研究会では、発表することが苦手な私は、緊張できちんと自己紹介の声が出ませんでした。今年度のテーマを先輩方が話していて、分からない所がありましたが、なかなか聞けないでいると先輩方々は、話を止めて分かりやすく教えて下さりました。研究会に参加していく中で少しずつ自分の思いを伝えられるようになってきたと思います。

行事では、ドッチボール大会、ともだちフェスティバル、将棋大会、卓球大会などを通して、たくさんのことを学びました。今まで、ボランティアで行事に参加させてもらったことはあったのですが、子どもの引率が多く、行事ごとのねらいや願いなどを考えたことがなかったので、研究会でねらいや他の施設との交流の仕方、環境や健康面などを考えて他の施設色々な思いを出しながら、話しあい決めること、中高生の動き、活躍できる場所なども話しあって決めていることを知りました。

また、研究チームでは、「知的検査」や「療育手帳」について調べ話しあいました。私の身内に知的障害で療育手帳を持っている人がいますが、今まで知的検査や療育手帳などを詳しく知る機会もなく、身内にいることで、自分の中で恥ずかしい思いや嫌な思いなどがあり、遠ざかっていたかもしれません。今回、研究活動でたくさんを知ることができ、自分を見つめ直すことができたと思います。

他の施設の方の事例などを意見交換することができ、貴重な体験をすることができました。

研究会に参加し、今まで人前で発表する事や自分の意見を伝えることが苦手な私が、児童部会や研修などに参加し、この一年間で何事にも経験しよう、積極的に取り組みたいと思えた一年になりました。

まだ、学童指導員として未熟だが、これからも今の子ども達と一緒に、楽しみながら成長し合い、子ども達から信頼され、どんなことでも相談できる存在でいれるようになっていきたいと思います。



2019 年度 研究会を振り返って

アフタースクール KIDS かわぐち
長岡 直哉

初めて今年度より地域の子ども研究会に参加させていただきました。

いろんな施設に行かせていただき施設の様子を見ることができました。他の施設がどういった環境、雰囲気なのか気になっていたのも、どんな本があるのか、どんな玩具があるのか、どのように構成しているのか等、訪れるたびにわくわくしていました。「この本おもしろそうだから図書館で借りてみよう、この玩具なら手作り出来そう、この構成なら子ども達が落ち着いて過ごせそう」等取り入れることができました。

また、いろんな施設の支援員さんとの交流がとても新鮮で勉強になりました。情報交換では他の施設の室内、戸外の遊び方、行事の種類、取り組み方等を話し合いました。「このゲーム遊びしたら盛り上がりそう、その行事やってみたい」等参考になることばかりでした。

他にも研究テーマでは、「発達障がいについて」をテーマに話し合いました。実際細かく調べてみたら知らなかった情報ばかりでお互い共有して意見を出し合いました。見方が調べる前と印象が変わり、制度に疑問に思ったことやメリット、デメリット等がわかり、発達障がいの検査方法、種類、判断基準等、深く学ぶことができました。

これからも研究会で学んだことを取り入れていき、自施設の子ども達や地域の子ども達に還元していけるように今後も研究していきたいと思います。

1 年間を振り返って

都島児童館 永野 夢実

私は今年度初めて地域の子ども研究会に参加させていただき、これまでは自施設の活動しか知らなかったのですが、研究会を通して他の施設の実態などたくさん知ることができたりと、とても学びになりました。この研究会に私が参加したのも他の施設の学童保育がどんな感じなのかを知りたかったというの也有ります。そういった中で、情報交換という場は私にとってはとても学びの場となりました。今までは自分の施設の方法が基準だったのですが、他施設の先生方の話を聞くと「あ、こういうやり方もあるのか」「他の施設はこんな事もしているのか」などと、新しい発見や学びがたくさんあり、私の中での学童保育の幅が大きく広がりました。私自身、保育に携わってまだまだ経験が浅いため、こうやってベテランの先生方と身近に話せることは、私にとってとても良い経験になりました。

行事やイベントなどは、都島児童館は子どもの人数が多いため残念ながらあまり参加することができませんでしたが、私が有いつ携わった大地協バザーでは、地域の子どもたちが楽しそうに過ごす姿を見てとても嬉しい気持ちになり、地域同士の交流の良さや大切さを改めて感じることができました。大人同士が協力をし合って子どもたちのために何か一つのもので作り上げるということは本当に素晴らしいものだと思います。もし来年も都島児童館が参加させてもらうのであれば、また是非携わりたいです。

研究活動では、発達障害の知能検査、療育手帳のあり方について研究をさせてもらいましたが、あまり研究に参加することができなくて申し訳ありませんでした。先生方が色々調べて下さった話を聞いていると、自分の知らなかったことや新しい発見がたくさんあり、とても学びになりました。知らないことが多すぎて、自分の保育の知識まだまだだなどすごく身に沁みました。こうやってみんなで一つものを調べて知識をつけていく事は面白いしすごく自分のためになるなと思いました。他の先生方の意見や実際の障害の子への対応の話なども聞くことができ、改めて自分のやり方や関わり方を見直すことが出来ました。この研究会を通して保育の知識の幅が広がったと思います。自分独自でも研究をして、もっともっと知識を増やしたいなと思いました。すごく自分のためになった研究活動でした。

地域の子ども研究会でお世話になった先生方には本当に感謝しております。ありがとうございました。この研究会で学んだことを普段の保育にも活かしたら良いなと思います。



今年度を振り返って

やまと保育園子どもの家

丸尾 咲貴

地域の子ども研究会に参加して2年目となり、少しは研究会について分かることが増えてきたと思っていましたが、今年度の児童部会開催会場が大阪だったので、研究会メンバーとして運営側に携わることになり、またもや先輩方について行くことに必死でした。

そんな中、5月に開催されたともだちドッジボール大会では、実行委員長を務めることとなり、正直不安でした。企画・運営はもちろん、ルールの見直し、合同チームのあり方についても何度も話し合い、結論がでない時もあったので委員長として準備を進めていく難しさも痛感した。色々躓く事もあったが、その度に周りの先輩方に支えられて無事に大会を終えることができた。この経験を活かし、行事についての取り組み方や新しい企画などにも子ども達と一緒に考え、挑戦していけるように活動したいと思う。

9月に開催された児童部会では、今年のテーマは子どもの権利条約についてだった。恥ずかしながら私は、子どもの権利条約について名前は知っていたが条約内容の認識については低かった。日々の保育の中で、子どもの権利条約が守られていないと感じることの例を出し合い、子どもと関わる私達（大人）としての意識の持ち方を議論した。子どもの思いや主張だけを聞くことが子どもの権利を守ることで無く、大人の思いも伝えてお互いの考えを擦り合わせていくことが大切だということが学べた。そして、この児童部会で私が一番心に響いたことは、子どもの最善の利益について話していた時に意見としてあった「ゆらぎ」という言葉の意味の深さにとても共感した。日々の保育の中で自分の考え方・見方の枠を作ってしまうといけないか（良い部分も悪いところも含めて）を知ること。「これでいいのかというゆらぎ」が大切であること。これまでの私は、今までこうやったからとか、先輩はこうしていた等、枠ばかりに捉われて保育の正解を求めすぎている自分がいた。それが子どもの為であって、権利を守っていることに繋がっていると勝手に思い込んでいたが大きな間違いだった。自分の保育感の中に常に「これでいいのか」というゆらぎの間で子どもにとって何が大切で、最善の利益とはどういうことかを意識することを学べた。私達大人一人ひとりが、子どもにとって権利とは何か、そして子ども自身が、知り・わかり・使えるような社会や制度に変えていく力を身につけていけるように、まずは、周りの大人が子どもの権利条約について意識をしていきたいと思う。今回の児童部会は私にとって指導員としてのあり方を見直すことや自分の考え方の枠を超えるきっかけにもなり、とても実のある時間を過ごすことができた。

これからも子どもとともに学び、研究会で経験したことを現場で活かせるように指導員としてのスキルアップを目指していきたいと思う。

一年間の振り返り

『地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指す』～踏み出す努力・視点・研究・還元～

今池こどもの家 山田 夢果

今年度から社会人となり、保育者として子どもたちと過ごした1年は、とても濃かったのですが、必死だったのか今までにないくらいあっという間でした。また、西成という地域で働くことをはじめ、何もかもが初めての経験で、現在進行中でもあります。たくさんの不安と向き合ってきました。そして、地域の子ども研究会もそのひとつでした。

去年の3月から研修として自施設で子どもたちと関わってきました。初めての出勤の日、ドキドキワクワクもしましたが、何よりも「不安」が一番大きかったように思います。そんな私に1番最初に大きな声で自己紹介をしに来てくれた4年生、遊ぼうと誘ってくれた2年生、自己紹介の進行をしてくれた高校1年生…子ども達の踏み出す努力、上司にとっても助けられた初日だったことを今でも鮮明に覚えています。

少しずつ自施設に慣れ始めた4月12日、地域の子ども研究会に初めて参加しました。事前に引き継ぎはしていただいていたが、経験したことがない事実は大きな不安が募る一方でした。知らない土地での会議、経験したことの無い行事にその運営、初めて耳にする言葉、様々な方との関わり、押し寄せる不安は研究会だけではなく、様々な場面でたくさんありました。

前述したように初めて経験する事柄は、誰にとっても不安があると思います。しかし、この一年間でたくさんの不安を経験することができたからこそ、子どもの不安な気持ちに気づき、寄り添うことができたのではないかと感じます。

例えば、初めて行事参加する子どもには「ゆっちゃん(私)も初めてやねん、どんなかな～、ちょっと不安やけど楽しみやな～」と初めての経験であることを素直に伝え、不安である気持ちや初参加する楽しみを共感することで安心できるような関わりを心掛けてきました。さらには、経験したことがある子ども達や周りの人が「教えてあげる!これはな～」「楽しいで!」「一緒にしよう!」「大丈夫。」と、実体験を丁寧に伝え、言葉や行動で安心へと導いてくれたので、初めて行事に参加する子どもと共に不安を乗り越える経験ができたと思います。また、そのように関わり合い支え合うことの不安解消の経験は、一緒に乗り越えられる仲間存在を知り、安心して過ごせる居場所づくりにもつながっていくと感じました。

様々な人との出逢いや交流を通して私自身が経験した「初めてのことにチャレンジする不安」は、この一年で同じ境遇にある子どもに還元していく機会が多くありました。この初心を忘れず、これから出逢う子どもたちにも還元していけるように努めたいです。

反省点はたくさんありますが、何よりも踏み出す努力が足りず、先輩方に支えてもらう一方だったことです。来年度は、今年よりも踏み出す努力をし、私自身が成功体験を味わい、踏み出す努力の素敵さを子ども達に伝えていきたいです。そして、支えてくださった先輩方のように私もいつか支えられる様な人になりたいと思います。

1年間の振り返り

長居子どもの家 横山 奈津美

今年初めて学童の支援員となり地域の子ども研究会に参加させていただきました。研究会では他施設の指導員が集まり、経験が長い人から短い人もいる中で最初はとても緊張した中での始まりでした。

初めて学童の支援員になり子どもとの関わり方など、私の中で分からない事が沢山あり自施設の取り組みだけしか分かりませんでした。研究会の中では情報交換があり、その

で自分自身が分からないことや他の施設の職員がどのようにして子どもたちとの関わりをしているのかなど学ばせていただいたりと、各施設の情報を共有し直ぐに現場で実践が出来良い経験にもなりました。

子どもたち同士の交流の中でドッチボール大会や友だちフェスティバルなど、全ての行事1つ1つに皆が楽しんで参加出来るように、ねらいや目的などを決めて進めている事も知りました。

他施設に対してのライバル意識を持って日々練習する姿を見て、大会では負けて悔しい思いをしたり勝って嬉しい気持ちを持ったりする事で自分への自信につながる良い経験だと思いました。今後もこのような交流が出来れば良いと思いました。

今年の児童部会のテーマが子どもの権利条約という事で、自分自身がきちんと理解できていなくて、色々な施設の方々の話を聞く中で知ることが沢山あり日々の保育に取り入れていこうと思いました。

今年1年小学生との関わり方が分からないままの始まりでしたが、時にはぶつかりあったり思いっきり遊んだ1年でした。

研究会や研修など沢山の人がいる中での発言をする事が苦手な私でも、その様な場に参加し経験をさせていただいたりと一緒に取り組んでいく中で色々なことを学び成長させてもらいました。

ここで学んだことを次につなげていきたいです。

1年間ありがとうございました。

2019 年度 振り返り

阿さひ保育園つくし会 吉野 裕志

「前から気になっててんけど、〇〇にとってここ（学童）ってなんなん？」

小学生と遊ぶわけでもなく、別に自分とおしゃべりするわけでもなく、椅子に三角座りをしてイヤホンで曲を聞きながらスマホをいじり続ける高校生に聞いてみた。スマホをいじる指が止まり、ちらっとこっちを見て

「・・・・・・・・わからん」

そう答えるとまたスマホに目を移した。質問に答えたという事はイヤホンで曲を聞いているふりか？はたまた、話し掛けられるのを待っていたのか？

高校生2年になったこの子は、友だち関係がうまくいかなくなり、11月ごろから、自分から頻繁に学童に来るようになった。その前までは外では一緒に遊ぶ事はあっても学童に足を運ぶ事はなかった。来たはじめこそ泣いたり愚痴ったり色々忙しかったが、友だち関係も落ち着いて、今では上記のとおりなににここに来ているんだ？って感じである。落ち着く場所になっているのか、行き場所がないのか？いやいや、休日に友だちと遊ぶ日もある。少し質問を変えてみる。

「ここに来て退屈じゃないん？」 「暇」

やっぱり暇なんじゃないか。それでも来てくれるのは他に目的や来る理由があるからか・・・もうひとつ聞いてみる。

「今の自分にとって学童ってさ、言い方としたらさ、遊びに行く？戻ってくる？帰ってくる？」 「帰ってくるやろ」

即答だった。『なにかをしたい！』『なにかをしてもらえる』で来ているわけではなかったのか。帰ってくる場所という思いは家のように外とは違って『なにもしなくても、いてもいい』と感じてもらえる場所になれていたという事だと思うと少しいい。

自分自身が小学生時代に学童に通っていたわけではないので、学童という場所がどういう場所なのかいまいち分からない。『帰る』という表現は“家”で、“学童”は『遊びに行く』という表現では？と思っていたが、『帰ってくる』が即答で出たというのが自分には驚きだった。

園長が亡くなり、帰ってくる中高生が増えた。みんな言う。「もっと来たらよかった」

なにをするわけでもなく、ただいるってだけで安心を与えていたのか、いて当たり前存在だったのか。ずっと疑問があった。帰ってくる場所ってえのは、ただ場所の事を言うのか、人があつての帰る場所なのか、園長が亡くなって、少し答えが分かった気がする。

そういえば、園長が亡くなる数日前、最後に会話をした中高生が、自分が知る限りでは上記の高校生かもしれない。帰りの挨拶をする高校生ににやにやしながら言う。

「お、どこのどなたさんや？」

本気のどわすれか、ネタなのか。「次来たらまずは名乗らなあかん」と話をしたが名乗れる事はなかった。さて、どっちだったのだろう。真相は分からないままだ。

2019 年度 地域の子ども研究会 参加施設一覧

施設名	郵便番号	住所	電話番号	FAX
愛染橋児童館 子どもの家	556-0006	浪速区日本橋東 2-9-11	6632-5640	6632-5645
阿さひ保育園 つくし会	545-0051	阿倍野区旭町 3-1-6	6631-4718	6631-1607
育徳園 子どもの家	545-0021	阿倍野区阪南町 5-15-28	6621-1901	6629-1979
今池こどもの家	557-0016	西成区花園北 2-16-26	6632-7020	6632-7020
今川学園 子どもの家	546-0003	東住吉区今川 3-5-8	6713-0277	6719-4755
四貫島友隣館 子どもの家	545-022	此花区春日出中 1-15-13	6461-3713	6462-1072
長居子どもの家	558-0004	住吉区長居東 4-11-16	6691-3369	6691-8292
望之門 学童クラブ	545-0052	阿倍野区阿倍野筋 5-13-17	6651-8650	6652-8841
平和の子 子どもの家	535-0022	旭区新森 7-1-5	6954-0524	6954-1961
都島児童館 子どもの家	534-0021	都島区都島本通 3-16-10	6921-4385	6921-4385
やまと保育園 子どもの家	559-0014	住之江区北島 3-17-1	6682-1746	6682-1786
アフタースクール KIDS なみよけ	552-0001	港区波除 4-4-18	6583-5230	6583-5231
アフタースクール KIDS かわぐち	550-0021	西区川口 3-1-23	6599-9070	6599-9071

発行

2020 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人

大阪市地域福祉施設協議会